

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171300680		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム七宗		
所在地	岐阜県加茂郡七宗町川並630-1		
自己評価作成日	平成25年12月20日	評価結果市町村受理日	平成26年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosyoCd=2171300680-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成26年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念に掲げている様に、利用様自身にやっていただく事、選んでいただく事を大切に日々の介護を行っている。また、自然に恵まれた環境にあり、近隣の方のご好意でお茶摘みをさせていただいている。旅行を実施する等、施設に入居してしまった事で、今まで当たり前に行ってきた事が制限されてしまったと思う事が一つでもなくなるように、利用者様の支援を行っている。馴染みの場所、店、人との関係を絶たないように、出掛ける機会を設けている。梅干し作り、干し柿作り等の馴染みの風習や、花見、蛍観賞等の季節を肌で感じられるような行事を大切にしている。その場で作って食べたり、自分で選んで食べたり、楽しんで食事ができるよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人のネットワークを活かし、安心な重度化・終末期に対応できる体制がある。また、利用者の生活支援では、外出が重要であると位置づけ、毎月マイクロバス等で、行楽地へ出かける楽しみも確保をしている。さらに、一人ひとりの希望に応じた、買物、外食、思い出の場所への外出も実践している。居間と台所は対面式で、利用者も気楽に家事に参加をし、満足して暮らしている。管理者・職員は、利用者一人ひとりが、その人らしい暮らしができるように、持てる機能を引き出し、活性化させながら、可能な限り、在宅復帰ができるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安 なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自分でできること、自分で選ぶことを大切に』という運営理念を事務所に掲示し、毎日の生活の中で利用者様に実践していただける様、また、それを地域とのかわりに繋げられるよう心掛けている。	地域との交流を深めながら、自らできること、選ぶことを大切に、理念に掲げている。理念を日々振り返り全員で共有をしている。利用者との対話を豊かにし、自己選択を支え、その人らしい暮らしを支援している。	職員が手を差し伸べる前に、可能な限り、主体的な自己選択を尊重し、理念の意義が、実地に活かせるように期待をしたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園との交流会、町の図書館の利用、地域で開催される行事への参加、地元の店を利用したりして、少しでも多くの方と交流が出来るよう心掛けている。	地域の保育園や中学校へ気楽に訪問し、便りを手渡したり、校長先生と会話をしている。事業所の「夕涼み会」には地域の人達を招いている。地域の活き活きサロンや茶話会等で、地域住民と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や店等に出掛け、地域の方に認知症の理解をしていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様と触れ合う時間(行事への参加、作品の作成等)を設け、利用者様の心身状況を知っていただき、その後報告を行い、意見をいただいている。いただいた意見は日々の介護に活かしている。	会議は隔月に開催し、家族、行政、民生委員等が参加をしている。現状報告のほか、列車事故賠償責任や見守りについて話し合ったり、地域交流についても意見を交換し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故や入院、入退居の報告をしたり、毎月、ホームのお便りを届ける際には近況を報告したりしている。	行政の窓口にて、運営推進会議の案内状や通信を手渡し、近況を報告している。地域包括支援センター主催の介護、医療の運営協議会に参加し、情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にかかわるマニュアルがある。玄関、居室は見守りが十分に出来ない場合を除いては常に開錠しており、万が一出られた場合でも、直ぐには呼び止めず、見守り、様子を伺い言葉掛けをしている。	身体拘束に関するマニュアルを整え、拘束をしないケアを実践している。利用者との関わりの中で、日常の行動をよく観察し、微妙な変化も見逃さないように対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人でマニュアルを作成している。実践者研修受講者は学んでおり、研修を受講した者が他の職員に伝達研修を行っている。虐待と見受けられる行為があれば管理者に報告し、防止に努めている。		

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在、活用しなければならない利用者様はみえない。職員は研修で学んでおり、研修を受講した者が他の職員に伝達研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、疑問な点があれば納得がいくよう説明を行っている。改定の際は家族会や面会時に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情受付の案内を行ったり、面会時に伺っている。職員からの意見等があった場合には、職員会議で検討し、議事録や申し送りノートに記入し、職員全員が周知出来るようにしている。	年に1回、家族アンケートを実施している。体重が増えるとの心配があり、食事の工夫や運動を増やす等に反映させている。また、毎月の便りと共に、個別の近況を報告し、相互理解に役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議での意見交換、意見・提案があれば話し合う時間を設け、反映させている。	月例の職員会議で、運営全般を話し合っている。利用者への適切な対応の仕方、排泄用品の効率化、食事と体重管理等の意見・提案を検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度終わりの自己評価も参考にして、職員の勤務状況を把握している。また、本人が希望する研修等があれば、参加出来るよう勤務を調整したり、家庭の事情を考慮し勤務を組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた法人内の研修に参加したり、興味のある一般の研修やセミナー等は、参加出来るよう勤務の調整を行い、質の高いサービスが提供できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内には同業者がない為、法人内のグループホーム7カ所で2カ月に1回、向上委員会を開催し、サービスの提供に関する意見交換を行っている。また、合同で行事を行い交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時、利用者様や家族様から直接聞き取りを行い、入居してからは本人様と関わりながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の症状を伺い、具体的にどんな事で困っているか、また、どのような要望があるのか話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく伺い、利用者様、家族様の立場に立って、何が今一番必要な状況であるか見極め、助言、対応している。サービスの利用に当たっては上司に報告、相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日のコミュニケーションの中からお互いの生活習慣や行事を共有しながら関係を築き、また、常に学ぶ姿勢で介護にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただけるようお願いをし、家族様参加の行事を取り入れ、一緒に過ごしてもらう時間を設けている。毎月、近況を報告し、カンファレンスへの参加、また、利用者様の誕生日を一緒に祝っていただけるようお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接するデイサービスセンターを利用している知人や近隣に住んでいる方との交流や、年賀状のやり取り、地域の行事や店に出掛け、触れ合う機会を大切にしている。	地区の活き活きサロンや敬老会へ出かけ、知人・友人と交流をしている。隣接のデイサービス利用者とのふれあいも大切にして、関係を継続している。馴染みの町内祭りや公民館行事へも参加をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが起こるような方とは、職員が間に入り、他の利用者様との間を取り持っている。また、食事の席に姿が見えないと呼びに行かれたり、下膳等、お互い言葉を掛け合って順番に行ったりしてみる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退居後も、必要に応じて利用者様の情報を交換し、また、エリア内の特別養護老人ホームに入所された場合、訪問し、言葉掛け等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望は本人様の記録やケアプラン等に記録し、職員全員が把握できるようにしている。困難な方に関しては、今までの生活状況や身近な方から情報を得、見つけるように努めている。	日頃の会話や表情、家族や友人からの情報等から思いを把握している。把握した希望や意向は、一人ひとりに合った、暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を一部活用し、情報を収集している。毎日の会話の中からだけでなく、家族様や知人からも収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付いた事は、本人様の記録に残し、状態の変化がみられる方は、常に申し送りを行い、職員全員が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様が面会にみえた時に話を伺ったり、出来る限り、本人様、家族様にもカンファレンスに参加していただいている。モニタリングは毎月行い、担当者は他の職員や関係者の意見も取り入れている。	本人・家族が、サービス担当者会議に出席し、意向を述べ、職員の評価や意見も加え、介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行い、より良く暮らせる計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員それぞれがその日の状況、気付いた事や、工夫も記録している。必要に応じて会議で話し合い、情報を共有、実践や会議計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様に代わって、受診の付添いや、利用者様の個人的な外出の送迎を行っている。		

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本が好きな利用者様には、地域の図書館を利用していただいたり、社協が企画する、地域茶話会にそれぞれ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居前にかかっていたかかりつけ医がほとんどで、家族様の希望によっては定期的に往診していただいている利用者様もみえる。また、緊急時に、往診をお願いする時もある。定期的に訪問歯科にかかってみえる方もみえる。	利用前からのかかりつけ医を継続し、受診は家族で行っている。各医師へは、必要な情報を提供し、連携体制を築いている。緊急時は、事業所の協力医療機関で、適切に対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師がいない為、隣接するデイサービスセンターの看護師に相談したり、診ていただいたりしている。また、エリア内のグループホーム七宗担当の保健師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院である木沢記念病院の地域連携室の職員と連絡を取り、情報交換している。また、他の病院でも担当者と連絡を取り、早期退院に向け努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態の変化には、家族様、主治医との連絡を密に取り、今後の対応の方針、緊急時の対応を相談。家族様と話し合い、利用者、家族様の意思の確認を第一に支援している。また、重度化した場合にも意向を重視し、主治医の診断に従い支援する。	重度化・終末期の支援は、家族、かかりつけ医、関係者で対応方針を段階的に話し合い、法人のネットワークで受け入れ先を確保する等、不安のないように支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、隣接するデイサービスセンターとの合同防災訓練を行っている。毎年1回の救急救命講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜の防災訓練を行っている。	年に2回、夜間想定も含め、避難、消火、通報召集等の訓練を実施している。関係者へは、メールでの一斉通信を設定し、より速く、確実な協力体制ができるようになった。	これまで不参加であった、地域の防災訓練へ参加し「相互の協力関係づくり」への取り組みに期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレに誘う際は遠くから大きな声で誘わない等、本人の気持ちになり、不愉快にさせないような言葉掛け、対応に心掛けている。何か、失敗されても何気なくフォローするよう心掛けている。	本人の前で、本人に関わる否定的な話をしないこと等を目標に掲げている。職員の都合を優先しないことや常識をわきまえた言葉かけに心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念にも掲げているように、自己決定する事を大切にしている。思いや希望を表せるよう、また、自己決定出来るような言葉掛けに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身の状況を把握し、本人の意思を確認し、支援している。昼寝や入浴等、本人様の意思を大切に、無理強いしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に移動美容室を利用し、毛染めやパーマ等、本人様の希望で行っている。普段着や外出時の衣類も出来る限り選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	エリアの栄養士が作成した献立に利用者様の好みや希望、旬な物、郷土料理や行事食を取り入れ、その場で作りながら食べたり、好きな物を目の前で取り分けられるようにして工夫している。個人の能力に合わせ、準備や片づけを一緒に行っている。	食材仕入れ、下ごしらえから、配膳、片付け等、利用者と共に行っている。検食者は一人で、他の職員も共にテーブルにつき、ゆっくり時間をかけている。時には、鍋を囲んだり、バイキング形式も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量は記録し、量を調整、水分摂取が少ない方には時間をおき勧めたり、種類を変えたりしている。エリア内の栄養士に変更した献立表を提出し、栄養バランスをチェックしてもらう。いつでもお茶が飲めるよう、急須にお茶を作り置きしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い能力に応じた支援をしている。週に1回、ポリデントで義歯洗浄を行っている。ほとんどの利用者様が歯科衛生士による週1回のケア、歯科医による月1回の検診を行っている。		

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄時間を用紙に記入し、職員が情報を共有し、個別に排泄対応している。夜間も個々に誘導を行い、オムツを使用しなくてもよいようにトイレでの排泄の支援をしている。	個々の排泄時間に応じた、昼夜の声かけ誘導で、自立を支援している。トイレでの排泄を習慣にして、紙パンツから布パンツとパッドを組み合わせ、おむつの使用が減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に乳製品を取り入れ、こまめに水分補給を行っている。日中は身体を動かす支援や、トイレ誘導時、腹部・臀部のマッサージを行い排便を促している。便秘気味の方は、下剤や坐薬を使用し、定期的に排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様に希望を聞き、昼夜入浴時間を設けている。毎日入浴したい方は毎日入浴している。昼間の入浴も急かさないう、ゆっくり入浴が出来るよう心掛けている。浴槽に入れない方は足湯を行っている。お茶の葉や菖蒲、柚子等も使用し、季節を感じていただいたりしている。	基本は、1日おきの入浴である。希望者は、毎日や就寝前でも対応をしている。湯加減等、一人ひとりの好みや習慣を尊重し、ゆったりと、楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前午後を問わず、本人様が希望されれば臥床していただいたりしている。室内の湿度・明るさ・換気等の調節も個々に合わせを行い、不快感を与えないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケースに処方箋を綴り、処方箋に変更があった際は申し送りし、直ぐに新しい情報(蛍光マーカーで分かりやすく)が得られるようにしている。服薬のマニュアルを作成し、確実に服薬が出来るようにし、確認チェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の趣味や仕事等の情報を得て、野菜・花を育てたり、調理、掃除等行っていただいている。本人様の希望で、本を借りに出掛けたり、お菓子を買いに掛たり、知人に会いに出掛けたりもしている。毎日コーヒーを飲んでみえた方にはコーヒーを出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や希望にそって、気候の良い日は散歩に出掛けたり、買い物、ドライブ等個別の希望にも沿えるよう努めている。家族様にも協力をお願いし、外出する機会を設けている。行きたい場所を伺い、個々に掛ける外出行事も企画している。	広い敷地内を、日々散歩をしている。月に1回、中学校へ通信を届けに行くのを定例化し、希望に応じた買い物、外食等も支援をしている。初詣や藤の花の名所地へは、法人のマイクロバスで出かけている。	

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は少額を事務所に管理している。スーパーでの買い物では、利用者様に支払いをお願いしている。外出の際には個人のお金を持参し、欲しい物を購入していただき、自分で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用出来るようになっている。電話を希望される方には職員が傍で支援し、話をさせていただいている。また、暑中見舞い、年賀状を家族や知人に送ったり、面会のお礼等を手紙で伝える方もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ばかりでなく、浴室・トイレの温度管理にも気を付け、不快にならないようにしている。同じような扉ばかりの為、浴室・トイレ・居室を間違えやすい方の居室には、大きな字の張り紙をしている。四季に応じた花や飾りつけをし、季節感を出している。	居間の壇上に、毎年恒例の「花餅」を飾っている。共同作品や思い出の写真集もある。空気清浄器や鉢植え、本棚を設置する等、居心地のよい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にも椅子、ソファを置き、いつでもくつろげるようにしている。また、居間の棚にはいつでも使用出来るように本や折り紙、ボール等の余暇道具を置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れた物や、今まで本人の部屋に飾ってあった物、大切にしていた物を持って来ていただくようお願いしている。また、居室担当者が利用者様と一緒に写真や作品を飾ったりしている。	洗面台、クローゼット、ベッドは備え付けてある。使い慣れた、筆筒や小物類の持ち込みもある。家族の写真や好きな動物のポスター、色紙などを目線に飾り、その人らしく、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、居室が分からない方や、トイレや浴室には大きな字の張り紙をしている。居間の棚には本や歌詞カード、ボール等余暇の道具を置いて、いつでも使用出来るようになっている。日付が分かるよう大きな日めくりを掲げている。		